



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月9日

上場会社名 株式会社AWSホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3937 URL http://www.aws-hd.com  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)青木 正之  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)石津 直幸 (TEL) 03(5803)7339  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	2,186	△0.5	154	13.0	169	5.8	82	—
28年3月期第3四半期	2,197	—	136	—	160	—	△48	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 70百万円(—%) 28年3月期第3四半期 △75百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	31.69	29.93
28年3月期第3四半期	△19.88	—

(注) 1. 当社は、平成28年6月21日に東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、平成29年3月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から平成29年3月期第2四半期連結会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

2. 当社は、平成28年3月4日付で普通株式1株につき10株、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	2,208	1,121	50.8
28年3月期	1,916	729	38.1

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 1,121百万円 28年3月期 729百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	—	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,434	17.3	271	40.0	270	16.2	167	—	63.41

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	2,756,160株	28年3月期	2,440,320株
29年3月期3Q	一株	28年3月期	一株
29年3月期3Q	2,618,873株	28年3月期3Q	2,440,320株

(注) 当社は、平成28年3月4日付で普通株式1株につき10株、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点においては、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による各種政策を背景として、企業収益や雇用環境の改善等、緩やかな回復基調で推移したものの、中国を中心とした新興国経済の減速や英国のEU離脱問題による円高・株安傾向から、米国の新大統領の施策に対する期待感の高まりによる急激な円安・株高傾向に転じる等、海外経済の不確実性の高まりにより、日本経済の先行きの不透明感は依然として継続しております。

このような状況の中、グローバル事業においては、フィリピンを中心としたオフショア開発を行っており、自動車、電機、産業機械をはじめとする製造業や流通、金融、医療など幅広い業界に対して、より付加価値の高いソリューションを提供し続けております。更に2016年11月には、金融・医療分野等におけるソリューション創出を目的として、当社グループが戦略的事業領域として定義する3Aの分野「Automation（ソフトウエアテスト自動化）」「Analytics（分析）」「AI（人工知能）」のうち、AIにおいてソフトバンク株式会社とIBM Watsonエコシステムパートナー契約を締結するなど、次世代型システムおよびR&D型ソリューションサービスを推進しております。また、同年12月には、元国内メーカー米国現地法人役員を当社に迎え、米国進出の基盤づくりを本格化させる等、更なるグローバル展開のための戦略・組織づくり・オペレーションを実行しております。

メディカル事業においては、レセプト点検ソフト「MightyChecker®」シリーズ、オーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」の売上は引き続き堅調に推移しており、ストック型ビジネスとして安定した収益源を確保しております。医療機関向けレセプト点検ソフトウエア『Mighty』シリーズの導入数が12,800医療機関を突破（2016年12月末12,830医療機関、2016年3月末比19.1%増）する等、シェア拡大による売上および利益の向上に努めており、これら導入数の加速度的な伸長を背景に、レセプト点検ソフトでレセプトデータにアクセスできる有利なポジションをより磐石なものにすると同時に、AIの活用を視野に入れた「医療ビッグデータ分析」を開始いたしました。その一方で、院内物流管理システム「Mighty SPD®」やCPCトレーサシステム導入コンサル支援は、市場開拓に時間を要しており、苦戦を強いられる結果となりました。

また、当第3四半期連結会計期間においてフィリピン・ペソの為替レートが急激な円安傾向に転じたことによる、子会社における売掛金等評価替えに伴う為替差損が、利益を一時的に圧迫いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,186,714千円（前年同四半期0.5%減）、営業利益154,650千円（前年同四半期13.0%増）、経常利益169,308千円（前年同四半期5.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は82,999千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失48,508千円）となりました。

セグメントの業績を示しますと、次のとおりであります。

#### ① グローバル事業

##### a. グローバル部門

グローバル部門においては、引き続き、既存顧客の好調な受注に加え、更なる業容拡大により着実な成長戦略を推進しております。受注や検収等の一部が第4四半期以降にずれ込む等の影響により、売上高は計画を下回る結果となりましたが、新規顧客の案件獲得に注力する一方で、自動車のeコックピット化に関わる車載機器のテスト自動化、製造業向けのIoTソリューションの確立を模索する等、当社グループの成長戦略に向けた取組みを積極的に実施しております。中国では案件失注の影響が残っておりますが、他社との協業や既存顧客の新規案件獲得に向けた営業活動を強化・展開しております。

##### b. エンタープライズソリューション部門

エンタープライズソリューション部門においては、日本アイ・ビー・エム株式会社を始めとする開発案件を中心とした既存案件が堅調に推移する一方、新規案件の客先都合による立ち上がりの遅延等の状況から、売上高は計画を下回っております。しかしながら、今後見込まれる案件の増加に対応すべく、積極的な採用活動を推進するとともに、先進技術の習得を含めた個々のスキルアップのための継続的な教育を行っております。

加えて、当第3四半期連結会計期間においてフィリピン・ペソの為替レートが急激な円安傾向に転じたことが、海外子会社の人件費等のコストの増加により、グローバル事業における利益を一時的に圧迫する要因となりました。

この結果、グローバル事業の売上高は1,400,086千円（前年同四半期3.2%減）、セグメント利益は260,055千円（前年同四半期2.5%増）となりました。

#### ② メディカル事業

メディカル事業においては、医療機関における点検作業の効率化や経営改善ニーズの高まりを背景として、Mightyシリーズの主力製品である「MightyChecker®」や「Mighty QUBE®」を中心に、導入医療機関および売上高は引き続き、

堅調に推移しております。また、ユーザー視点に立った利便性の高い製品・サービスを提供すべく、既存製品の機能強化に向けた開発を本格化させております。これにより、既存顧客のみならず、新規顧客の獲得に向けて一層強固な事業基盤を構築し、更なる収益力を高めてまいります。グループ病院等の大型医療機関に有益なシステムである「査定・返戻分析Lite®」についても、売上・利益とも計画を大きく上回る結果となっており、更なる拡販に向けて営業を強化しております。

一方で、院内物流管理システム「Mighty SPD®」およびCPCトレーサシステム導入コンサル支援については、市場開拓に時間を要しており、苦戦を強いられているため、組織体制の再構築に速やかに着手しております。

この結果、メディカル事業の売上高は792,240千円（前年同四半期8.6%増）、セグメント利益は91,412千円（前年同四半期83.9%増）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産の部）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,785,075千円となり、前連結会計年度末に比べ308,065千円増加しました。これは主に、現金及び預金が254,372千円、受取手形及び売掛金が15,385千円増加したことによるものであります。固定資産は423,733千円となり、前連結会計年度末に比べ16,100千円減少いたしました。これは、有形固定資産が1,921千円、投資その他の資産が10,425千円増加したものの、無形固定資産が28,447千円減少したことによるものであります。

### （負債の部）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は825,914千円となり、前連結会計年度末に比べ98,334千円減少しました。これは主に、前受金が11,350千円増加したものの、買掛金が28,276千円、短期借入金が35,303千円、賞与引当金が54,174千円減少したことによるものであります。固定負債は261,736千円となり、前連結会計年度末に比べ1,342千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が6,613千円、退職給付に係る負債が18,150千円減少したことによるものであります。

### （純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,121,158千円となり、前連結会計年度末に比べ391,642千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金が82,999千円、増資により資本金及び資本剰余金が321,206千円増加したことによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年6月21日に公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」に記載のとおりであります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、2016年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

### (4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	827,905	1,082,277
受取手形及び売掛金	354,219	369,605
仕掛品	10,502	16,805
その他	288,403	320,013
貸倒引当金	△4,021	△3,625
流動資産合計	1,477,010	1,785,075
固定資産		
有形固定資産	47,251	49,172
無形固定資産		
ソフトウェア	160,647	119,552
ソフトウェア仮勘定	57,062	69,710
無形固定資産合計	217,710	189,262
投資その他の資産	174,872	185,298
固定資産合計	439,834	423,733
資産合計	1,916,844	2,208,809

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	69,958	41,682
短期借入金	35,303	—
1年内返済予定の長期借入金	93,460	92,808
未払法人税等	34,690	19,901
前受金	438,282	449,633
賞与引当金	144,757	90,582
その他	107,796	131,307
流動負債合計	924,249	825,914
固定負債		
長期借入金	127,117	120,504
役員退職慰労引当金	21,300	21,300
退職給付に係る負債	47,675	29,525
資産除去債務	7,053	7,110
その他	59,932	83,296
固定負債合計	263,079	261,736
負債合計	1,187,328	1,087,651
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	535,080	695,683
資本剰余金	439,696	600,299
利益剰余金	△216,297	△133,298
株主資本合計	758,478	1,162,684
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,740	△26,398
退職給付に係る調整累計額	△19,221	△15,127
その他の包括利益累計額合計	△28,962	△41,525
純資産合計	729,515	1,121,158
負債純資産合計	1,916,844	2,208,809

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
売上高	2,197,012	2,186,714
売上原価	1,443,147	1,356,079
売上総利益	753,865	830,634
販売費及び一般管理費	617,028	675,984
営業利益	136,836	154,650
営業外収益		
受取利息	542	327
持分法による投資利益	6,834	3,973
為替差益	15,387	15,730
その他	4,004	8,031
営業外収益合計	26,768	28,062
営業外費用		
支払利息	2,837	1,582
株式交付費	—	1,134
株式公開費用	—	9,802
その他	758	885
営業外費用合計	3,595	13,404
経常利益	160,010	169,308
特別利益		
固定資産売却益	399	—
特別利益合計	399	—
税金等調整前四半期純利益	160,409	169,308
法人税等	208,917	86,308
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△48,508	82,999
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△48,508	82,999

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△48,508	82,999
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△29,585	△16,657
退職給付に係る調整額	2,208	4,094
その他の包括利益合計	△27,377	△12,563
四半期包括利益	△75,885	70,436
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△75,885	70,436
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

#### 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

#### 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

#### 3. 株主資本の著しい変動

2015年6月25日開催の定時株主総会の決議により、資本準備金115,383千円を減少し、その他資本剰余金に振替え、振替後のその他資本剰余金245,383千円の全額を利益剰余金に振替えることにより欠損填補いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金は439,696千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

#### 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

#### 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

#### 3. 株主資本の著しい変動

当社は、2016年6月21日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。上場にあたり、2016年6月20日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株式発行110,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ125,994千円増加しております。また、2016年7月25日を払込期日とする有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による新株式発行16,500株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ18,899千円増加しております。

さらに、当第3四半期連結累計期間において新株予約権の行使による払込みにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ15,710千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は695,683千円、資本剰余金は600,299千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,440,401	729,595	2,169,996	27,016	2,197,012	—	2,197,012
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,980	—	5,980	—	5,980	△5,980	—
計	1,446,382	729,595	2,175,977	27,016	2,202,993	△5,980	2,197,012
セグメント利益又は損失(△)	253,803	49,704	303,508	△13,670	289,838	△153,001	136,836

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに該当しない、事業化を検討している新規プロジェクトであります。  
 2. セグメント利益の調整額△153,001千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。  
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,394,474	792,240	2,186,714	2,186,714	—	2,186,714
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,612	—	5,612	5,612	△5,612	—
計	1,400,086	792,240	2,192,326	2,192,326	△5,612	2,186,714
セグメント利益	260,055	91,412	351,468	351,468	△196,817	154,650

- (注) 1. セグメント利益の調整額△196,817千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。  
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。